

卒業おめでとう 卒業生へのメッセージ

開明PTA新聞

【第40号】

開明中学校・高等学校
電話/06-6932-4461

発行責任者

PTA広報委員会

3年A組担任 水上 誠



フランス実存主義の哲学者であるジャン=ポール・サルトルは、「実存は本質に先立つ」という言葉で、人間はみずからつくること以外の何ものでもない、としています。皆さんが今後、自分自身をどんな人間にするのか、それはこれからそれぞれの道を歩み中で形作られていくことでしよう。
常に向上心をもって歩いていってください。卒業おめでとう。

3年B組担任 信山 梓



「教室に落ちたゴミは君達の心の乱れです。」と、岡本先生。「自分一人手を抜いても平気やと思ってたら、全体でもやってないねん。」(葡萄酒の話)と、高見先生。私が君達に語りかける姿勢は多くの先生方の言葉に支えられています。人との出会いが人をつくる。君達も出会いを通じて成長し、君達の存在が誰かの一部になることを願います。こんなに大切に思える存在に出会えて私は幸せです。共に歩んだ6(3)年間が今の私をつくっています。

3年C組担任 金光 清太郎



皆さんには色々学ばせてもらうことが多く、そして助けてもらってばかりの日々だったと思います。そんな未熟な僕に毎日のように注意されても、しっかりと前を向いて、信じて、素直についてくれた皆さんは今後どんな先輩、教員、上司にも対応できるはず。皆さんは本当に僕の自慢の生徒です。この言葉が皆さんにとって少しでも誇らしく思えるよう、今後も精一杯努力するので見ていて下さいね。ご卒業おめでとうございます。

3年D組担任 小木曾 貴



皆さん卒業おめでとう。高校1年生の編入の担任からこの学年には3年間所属していました。思い返せば色々な思い出がありますが、私にとっては本当にあったという3年間で、君たちにとってはどんな3年間もしくは6年間だったのか、楽しかったことや苦しかったことなど色々なことがあったと思いますが、大切なのは今後の人生においてその経験を活かし、幸せになることです。君たちのやりがいと笑顔に満ちた人生を心から祈っています。保護者の方々も開明の教育を理解しサポートして下さり本当にありがとうございました。

3年A組副担任 峯岸 敬子



ご卒業おめでとうございます。これから、「なりたい自分」になるためのスタートです。そのためには、学び続け、努力し続けて下さい。そして、「なりたい自分」になれるように、直往邁進して下さい。成長した皆さんに再会できることを心から楽しみにしています。

3年B組副担任 徳山 敦則



生物学的に10⁻¹⁰よりはるかに低い確率で君は生まれてきた。何のために生まれてきたのでしょうか?君にしかできない大切な事を見つけてください。人と共にいることを忘れずに。

3年C組副担任 丹羽 務



案な道を選ばず、自分の信念をまげずに、周りが何を言おうが、これからどう進んでいくかをじっくり問うて下さい。これまで自分を支えてきてくれた人たちに、何ができ、何をすることが支えてきた人たちの喜びになるかをじっくり考えてください。そこから君たちの真の成長が始まります。

3年C組副担任 海原 直之



高3生の皆さん卒業おめでとうございます。新しい門出を迎え、期待に胸を膨らませていることでしょう。大学に進学したら、多くのことに積極的にチャレンジして下さい。そして成功や失敗を体験し、多くの人との関わりを通して、経験を積んで下さい。それが今後の君たちの人生の糧となります。前へ進め! Go ahead!

3年D組副担任 山本 正人



「人間は自然のうちで最も弱い霊にすぎない。だがそれは考える霊である」パスカル
人間の本質はこの「考えること」の中にあります。しっかり考え、着実に歩む。偉大な考える霊になって下さい。

3年E組担任 工藤 康晴



人生の楽しみ方 懸命に生きてくれ。そんな君に過去(きのう)は自信になる。懸命に生きてくれ。そんな君に現在(いま)は支えになる。懸命に生きてくれ。そんな君の未来(あした)は明るくなる。
君たちが卒業するというのに、私はこんなくだらないことしか言えません。ただ、こんなくだらないことを本気で伝えたいから、大きな声で言います。私はこれからも懸命に生きていこうと思います。後悔は有りません。むしろ、ワクワクします。

3年E組副担任 濱野 恵美



自分の信じている想い、使っている言葉が自分の現実を造り、世界になります。良き言葉、美しき想いをもち、幸せを信じて自分らしく生きてください。皆さんの幸せな未来を信じ、祈っています。

3年F組担任 古塚 郁夫



「人八皆、師ナリ」
君たちは今、「高校卒業」という大きな壁一つ乗り越えました。この壁を乗り越えられたのは、君達自身の力もありますが、親をはじめとする周囲の支えがあったからです。改めて感謝の気持ちを伝えましょう。また、縁あってめぐりあえた人からは、何かしら学ぶべきものがあると思っています。周りの人はみな「人生の師」として、謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、今よりも一回り大きな人間になるよう祈っています。卒業、おめでとう。

3年G組担任 本間 文章



私「だいがくいぎってすけ、ろうにんすっがの」
友人「すんげの、まだべんきょうするん」
私「おんめどうするん」
友人「とうきょういって、ぶうすっがの」
30年ほど前の卒業式の日にスロープにあたりながら友人と話したことが、つい先日のような気もすれば、君たちと10年以上一緒にいたような気もします。これまで高3生は20年以上教えてきましたが、担任としては初めての卒業生です。思い返すといういろいろありましたが、本当に楽しい日々でした。たくさん思い出をありがとう。

3年F組副担任 河上 新吾



若者の最大の弱点は恐らく結果を焦ることです。人間は短期で達成できることを過大評価し、長期で達成できることを過小評価する傾向にあります。覚えておいて損はないです。

3年G組副担任 辻川 誠



「旅立ちの時はいつだって少し怖いけど これも希望のかたちだってちゃんと分かっている 思い出に変わるのほきと最後の最後さ 笑って「さよなら」を言えたらいいな」
オワリはしまり:かりゆし58より

中学卒業に寄せて

中学3年学年主任 藤崎 恭宏

2017年4月7日、雨の中、入学式を迎えました。そして土砂降りの中でのカレー作り。そのことがつい先日のように鮮明に思い出されます。3年という月日はあっという間で、でもとても密度の濃い時間でした。たくさんの方の成長を見てきました。少しずつ大

人に近づいてきているんだな、と感慨深いです。一方未熟な場面もまだまだ多く見かけられます。開明高等学校に進学する人も、開明以外の進路を選ぶ人も、270名が次のステージで更なる成長を遂げることを期待しています。

世界に目を向けて

校長 早坂 元実

105期生となる皆さん、卒業おめでとう。高校を卒業するともう皆さんは一人前、これまでと違い周りは皆さんをそう扱います。その自覚を持ってください。そしてこれからの皆さんの学びと活動がこれからの社会を作っていく、この自覚を持ってください。だから社会はより社会に関心を持って生活していく、これが大事です。未来は皆さんの手の中にあります。それはどういふことを学び、どういふ仕事をしよう、社会と関わっていくかによって作られて変わっていきます。それは日本だけではなく、地球規模の問題にもつながっていきます。そしてこれらの問題は全て具体的です。たとえば温暖化のことなど。皆さんの活動のエネルギーが世界の若者たちとより良い明日の社会を作るための共同作業へと向かう事を願っています。皆さんの前途に幸あれ。

遥かなる学びの旅へ

専務理事 澤田 明

105期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。君たちが中学に入学した年は、校舎の地階の基礎が完成し、地上階の建設が始まった時でした。1ヶ月で1階ずつ積み上がり、2年生の春に新校舎に引っ越しました。11月には、100周年の記念式典が、国際会議場で行われました。その間、運動場、体育館の改修工事を実施し、3年生になる時に、全て完成したのです。君たちが開明で学んだ6、3年間は、自然や社会の成り立ちや仕組みを知る事や集団生活での規範や他者への思いやりでした。この事は、社会生活の土台となる大切なものです。人類は、生ある限り「学ぶ(学習する)」という特質をもち、その事が社会を歩ませ、現在に至っているのです。また、私たちは無意識で学ぶだけでなく、意識的合理的に学ぶ事により、社会を維持・進歩させ、この世界に学校制度を誕生させ、発展させてきたのです。現在、急速な科学技術の進歩は、社会構造の大変革をもたらすと言われています。卒業生の皆さん! 皆さんは、それらを乗り越える基礎:土台を、小中高の12年間でしっかり身につけています。これからの君達の「人生(学習)の旅」は、地球人の明るい未来を切り開く「壮大な「ロマン」あふれる旅」になると信じています。

卒業生諸君へ

高校教頭 白江 恵三

卒業おめでとうございます。6年前、私が中学教頭として初めて行事の引率をしたのがこの学年のオリエンテーション合宿でした。その後、予定していた宿舎の火災で急遽、別の場所に変更になったスキー実習など、とても思い出深い行事を含め、中学では様々な行事で諸君と関わりを持ちました。残念ながら、高校では余り接する機会がなかったのですが、高校教頭として諸君の卒業を見届けることができるのも、やはり諸君と縁があったのだと感じています。中学や高校で蓄えた知識経験を様々な分野で活かし、広い世界で大きく羽ばたいて下さい。

新たな学びへ

中学副校長・教頭 森脇 靖

卒業おめでとうございます。昨年の10月、ノーベル物理学賞受賞の梶田先生をお招きして進路講演会が開催されました。講演後の生徒との質疑応答の中で、梶田先生が「研究は楽しいので度々辛いと思ったことはない」と答えたことが私には強く印象に残りました。皆さんはこれから大学に進み、自分の専門分野の勉強を始めます。この勉強をいかに減らさないでほしいと思います。自分が本当にやりたいことを見つけて、それを自分の仕事に結びつけようと思えば、相当の勉強が必要です。梶田先生のように「辛い」と思ったことがない「仕事に就くことができれば」といほど幸せなことでしょう。健闘を祈ります。

梶田先生の警鐘

高校教頭補佐・進路指導部長 重康 学

高3生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが最終学年を迎えた今年、ノーベル物理学賞受賞の梶田先生にお話をいただきました。先生は近年、国から大学への交付金の削減で日本の科学技術が衰退に向かうと警鐘を鳴らされています。すぐに成果が上がらず無駄に見える研究でも、将来輝くものがあるというのです。近視眼的な功利性だけに捕らわれず先を見越したものの見方や考え方は、当に卒業する皆さんにも求められるのではないのでしょうか。実は今年の化学賞となったリチウム電池を取り巻く科学技術も、今や中国や韓国に押されてきているのです。



開明行事報告

高校体育大会



例年9月だった高校体育大会ですが、「2年連続雨にみまわれた」「文化祭と同じ月だと長期間ふわふわと勉強に身が入らない」という2つの理由から、今年度は5月末の開催となりました。梅雨に入る直前に北海道の網走地方で39.5度を記録したのは驚きでしたが、当日の長居陸上競技場は爽やかな風の吹く好天。日陰は涼しくらいで最高の体育大会日和となりました。私は今回記録係としてフィールドに入り、とても近い位置から普段見ることのない子どもたちの必死な姿をカメラに収めることができました。この歳になって鼻の頭がむけるほど日焼けするとは思いませんでしたが、6年間で一番楽しめたのは間違いありません。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。スタンド席からは終始元氣な声援が響き渡り、今年度の体育大会は大変心地いい記憶として子どもたちの心の中にも残ったことでしょう。

(広報委員 浦西)

PTA進路対策講演会

2020年度の入試環境について

7月6日(土)に進路対策講演会が二部構成で開催されました。第一部では、藤岡敬子氏(駿台予備学校上本町校・校長)をお招きし、「2020年度入試と、共通テスト導入後の入試環境について」と題して、大学入試制度改革に関する情報と対策、現制度での入試に関して最新のデータに基づいた分析結果、家庭での受験生への接し方や生活習慣について、ご講演いただきました。

第二部では5人の卒業生を迎え、個々の経験や在校生へのアドバイス等を話していただきました。大学選択までの過程、成功体験や失敗談、一つ一つが心に強く響き、笑いあり感動あり、大変充実した時間となりました。

(進路対策委員長 近藤)

新しい時代の文化祭



9月8日(日)令和になって初めての文化祭が開催されました。文化祭のテーマ「Switch」をイメージし、時代と時代の切り替えを表現した校内装飾の数々が各来場者の皆様を迎えてくれました。また、新しい時代を感じることができた展示や企画もありました。



PTAではバザー、制服リサイクル、食べ物販売、開明ドラ卒業生ブースでは従来の卒業生との相談に加え、新しい試みとしてロボットプログラミングを実施致しました。どのブースにも多数の方にご来場頂き、大盛況に終わることが出来ました。これもひとえに、バザー品等を寄贈して下さいました皆様、運営に携わって下さった委員の皆様、PTAクラブの皆様、先生、生徒、卒業生の皆さんの多大なるご協力の賜物と心より感謝いたします。

(PTA役員 佐野)

中学体育大会



9月22日(日)、直前まで天候が心配される中で、清滝グラウンドにて第29回開明中学校体育大会が無事開催されました。

会場では、各クラス色とりどりの横断幕と学年カラーのTシャツが大変目を引きました。短距離走やリレーでは、力強い走りを見せてくれました。また、30人31脚や大縄跳び、ダンスや騎馬戦、どの団体競技も日頃の練習の成果が発揮され、その白熱ぶりに観客席からも大きな拍手が沸き起こりました。PTAの玉入れにおいても、多くの方々に参加して頂き、大変盛り上がりしました。

終盤、突然の雨に見舞われ残念ながら最後の学級対抗リレーは中止となりましたが、生徒たちの大会を楽しむ笑顔が見られ、見所満載の体育大会となりました。

(広報委員 中一班)

心ときめく癒しの時間



10月26日(土)一般社団法人日本ホスピタリティセラピスト協会理事の松本恵生先生をお招きし、「セルフ小顔リフト整顔と深眠タッチセラピー」講習会を行いました。セルフ小顔リフト整顔では即実践できる表情筋のほぐし方と「ラブラブキウキ」の呪文を、そして大切な人へ大切に「コンセプト」として、深眠タッチセラピーでは「触れる」ことの大切さを教えていただき、中高生の我が子と長らく触れていなかった事に気付かされました。誰かを癒すことにより、自分もまた癒される。大切なことを思い出し、とても素敵な時間となりました。今回の講習を希望されるお声も多数頂いております。天候不良のため急な延期開催となりましたが、ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

(健康推進委員長 西谷)

新時代の幕開けに伊勢神宮へ



今年度のPTA社会見学は「令和元年」という新時代の幕開けにふさわしい場所ということで伊勢神宮内宮を企画しました。秋晴れの11月7日、バス4台で170人を超える参加者と、これまで最も遠方となる三重県まで足を延ばしました。まずは、日本人の総氏神である天照大御神を祀る伊勢神宮内宮にご参拝。その後は、美しい鳥羽湾に囲まれた鳥羽国際ホテルで伊勢海老をメインとした美味しいフルコースランチをいただきました。帰りは門前町のおかげ横丁に立ち寄り、「赤福」など伊勢名物の買い物を楽しみました。参加者の方々は「充実した日でした」という声を多数いただきました。来年度も多くのご参加をお待ちしております。

(企画委員長 小田原)

令和時代、輝いて生きるには

11月9日(土)人気アナウンサー山本浩之さんに講演していただきました。前半は、大阪の街で遭遇する面白いこと、放送局ならではの興味深い話など、ユーモアたっぷりにお話しされ、会場は笑いに包まれました。後半は、インタビュー形式で質問にお答えいただきました。アナウンサーを目指す中高生には「技術より、まず人としての幅を広げること」がおすすめのこと。

「日々新たに」という言葉を大切にされ、上手にこなすこともダメだったことも引きずり過ぎないというお話が印象的でした。多くの保護者、先生方にお越しいただきましてありがとうございます。来年も文化教養委員会主催の講演会を開催いたしますので、ぜひご参加ください。

(文化教養委員長 久保田)

高3生 激動年越しそば



12月31日大晦日恒例の年越しそばに参加いたしました。元々先生が行っていた行事でしたが、数年前から高3学級委員会が中心となり、開明会、卒業生のご協力のもと開催しております。今回は学年通信などで案内して下さったおかげで生徒214名先生とお手伝いさん達を合わせ278名と過去最高の参加人数となりました。センターマラソンの中、昼食に温かいおそばを食べながら友達や先輩と楽しそうにお喋りをしてリラックスしている姿が見られ受験生から「美味しかったです」と笑顔で言われとても嬉しかったです。良い経験をさせてもらいました。年末で多忙の中、準備から当日のお手伝いをしていただいた皆さんには本当に感謝しております。ありがとうございました。(PTA役員 藤原)

センターマラソンとは…高3生がセンター直前の約1ヶ月間、お正月も返上でマーク形式の開明特有の追い込み方法です

花を愛でる

特に桜は私たち日本人にとって特別な花であり、風物を受でるという文化の一つの象徴ではないだろうか。桜を見る会が議論を醸し出している。新幹線などで行く招待された客は、出席し如何に感じるのだろうか。私ならその榮譽を周囲に伝え自身が文化的であることに誇りを感じ、きつと桜を愛でることが習慣になるだろう。仲間たちと花見を頻りに企画するかもしれない。文化的であるという幸せを分かち合いたいと思う。批判：。よりも美しいものを愛でる心を子どもたちに伝える。心が豊かだからこそ花咲くのだと思う。物事に完成はないが、こんなロジックに今後のPTA活動の躍進の余地があるのではないだろうか。

PTA会長 谷中宗貴

編集後記

皆様のおかげで、無事40号を発行することができました。お忙しい中、原稿依頼に快くご協力いただきました先生方、関係者各位に心よりお礼申し上げます。広報委員として学校行事に関わりながら、1年間楽しく活動することができました。来年度もよろしくお祈りします。

広報委員会 同

卒業生保護者の会

開明会

Kaimikai

開明会は卒業生保護者として卒業生が活動する行事(開明大学、成人会、文化祭、受験生激励年越しそば等)の後ろだてとなり、その活動を通して在学中からのご縁を繋げております。

※詳しくは開明中からご質問ください。

